

先週の礼拝メッセージ(2024年2月25日) ベン牧師

「救いの喜び」 詩篇51:9-14

先週に引き続き、ダビデの悔い改めの歌である詩篇51篇からみことばに聞いていきましょう。

9節から14節は、一節一節が彼の神への祈りです。

「ヒソプで私の罪を取り払ってください。私は清くなるでしょう。私を洗ってください。私は雪よりも白くなるでしょう。」(9節)

ダビデは自分の犯した罪を赦すにとどまらず、それを行なってしまった「私」自身をきよめてくださいと願っています。行為として犯してしまった罪はもちろん悪いことですが、私の心のうちにそれを行ってしまう汚れた思いがあるから行為へと進んでいってしまうことを、ダビデは痛感していたのです。彼は姦淫や殺人を犯すまでの過程で、それらをストップすることはできたはずですが、しかし欲望のままに行為に走りまわりました。彼は自分の内側の汚れ、それこそが清められなければならない罪の本質であると苦しんだのです。旧約の時代は、心で悪を思っても行為として行わなければ罪に咎められることはありませんでした。しかし彼の心は痛んでいました。10節には、

「あなたが喜びと祝いの声を聞かせ、砕かれたこの骨を喜び躍らせてくださいますように。」

と祈っています。砕かれた骨とは、神が砕いた骨ということです。骨が折れていても外側から見てもわかりませんが、動かすことはできません。それと同じように、彼は王として、罪を犯した後も礼拝を捧げ、王としての仕事はしていました。以前と何ら変わりなく生活していたのです。しかし彼の内側は、砕かれた骨のようにバラバラで何の力の出ない苦しみの状態でした。自分自身が清められなければ、たとえ行為が赦されたとしても何の解決にもならないのです。ですから、もう一度、神の喜びと祝いの声を聞くことができる、清い心を与えてくださいと願うのです。

「御顔を私の罪から隠しあらゆる過ちを拭ってください。神よ、私のために清い心を造り、私の内に新しく確かな霊を授けてください。」(11、12節)

まだイエス様の十字架を知らないダビデでしたから、なぜ赦されるはずのない罪を赦されたのかはわかりませんでした。それだからこそ、なお自分に清い心を作ってくださいと願ったのでしょう。清い心とは神様から離れない心です。そして新しく確かな霊を求めています。

皆さんは新しくされていますか？ 私たちはイエス様を信じて新しく造られた者たちです。(コリントⅡ 5:17) さらに、私たちは栄光から栄光へと、日々新しくされているのです。(コリントⅡ 3:18、4:16) これは新約に生きる私たちに与えられた恵みです。ダビデはこの新しい霊を求めています。これは自分が神から離れ、罪の方に向かって行かないように、助け導く霊を求めているのです。まさに聖霊のことです。イエス様の十字架以前は、聖霊が人の内側に住むという恵みはまだ与えられていなかったのです。

「あなたの前から私を退けず聖なる霊を私から取り去らないでください。」(13節)

ダビデの時代も、神様に従う人には聖霊はいつも共にいてくださいました。しかし罪を犯した彼には聖霊の働きを感じることはできませんでした。聖霊は彼の姿を悲しまれていたのです。「神の聖霊を悲しませてはなりません。」(エフェソ4:30)

聖霊は愛のお方ですから、私たちを無理やり従わせるようなことはなさいません。私たちの方からへりくだり、聖霊に自分自身を明け渡すのを待っておられるのです。罪を犯し悔い改めもしない状態のままにいるなら、聖霊が働かれるということはありません。ダビデは、聖霊の働きをとどめていた自分の姿の哀れさを体験し、聖霊に満たされることの恵みを改めて知ったのです。

「救いの喜びを私に返し、導きの霊で私を支えてください。」(14節)

救いの喜びというと、イエス様を信じて洗礼を受けクリスチャンとなった時の喜びと思う人がいますが、そうではありません。私は救われている、という喜びです。救われたという経験からではなく、救われているという事実からくる喜びです。この喜びはクリスチャンである限り決してなくなりません。だから聖書は「いつも喜んでいなさい」と命じているのです。ダビデは罪を持ったまま、隠したままの時は、この喜びは失せていました。だから救いの喜びを返してくださいと祈っているのです。導きの霊とは、私たちを正しい道に導く神の霊のことです。まさに私たちのうちの住んで、私たちを正しい道に導く聖霊です。

9から14節の祈りすべてが、救いの喜びを求めているのです。あれをしたこれをしたという罪以上に、私の心が清められ、神の喜びで満たされるように祈っているのです。ダビデは罪を赦された者として、心からの悔い改めの歌を記し、神の憐れみを求め、自分の心情を正直に歌いました。私たちはイエス様の十字架の赦しと聖霊の内住を知っています。だからこそ、自分を点検し、悔い改めるべきことがあるなら素直に悔い改め、救いの喜びを決して失うことのない歩みを続けていこうではありませんか。